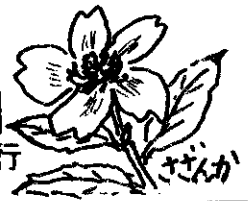
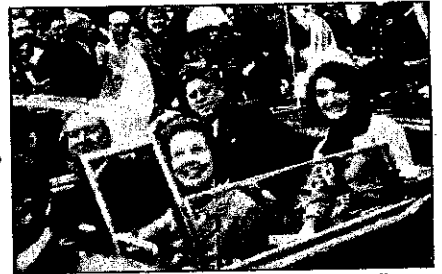


九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 8 1
2008(平成20)年11月22日(土)発行



<45年前の1963(昭和38)年11月22日、アメリカ・ケネディ大統領暗殺の日>
◆この日は、日米間に初のテレビ中継実験で35代ケネディ大統領のメッセージが放映される予定だったが、皮肉にも大統領暗殺のニュースが飛び込んでくる◆テキサス州ダラス遊説で飛行場から市の中心部へオープンカーで行進中、午後12時半、3発の銃声が耳をつんざいた。一弾を頭こうげ、夫人は「オー・ノー」と悲痛な叫びをあげ、夫の頭をだきかかえた。車は全速力で病院へ走ったが、午後1時(日本時間23日午前4時)大統領は絶命。46歳でした◆43代ブッシュまで、暗殺された大統領は4名。初の黒人大統領となるオバマ氏暗殺未遂事件も起きていて不気味です◆オバマ氏の大統領当選後、未曾有(みぞう)の経済危機のアメリカ国内で唯一売上げが伸び品不足なのが「銃」業界です。オバマ氏が「銃社会を是正する」と訴え、銃規制が厳しくなる予測のためです。毎年3万5千人もが銃の犠牲になっている「銃社会アメリカ」の異常さ。さらにそれがそのまま軍需産業に直結している恐ろしさ。



「平和を唱える人より、平和を創る人になりたい」

相馬雪香(ゆきか)さん 難民を助ける会会長・対人地雷廃絶の活動
11月8日死去(96歳)・相馬地方と深いゆかりが



◆11月8日、96歳で死去された相馬雪香さんは、1912(明治45)年東京に生まれます。父は「憲政の神様」といわれた政治家の尾崎行雄(号堂がくどう)で、その三女。欧州を回る父に随行し通訳を務める。◆才気煥発、男まさりの性格。女子学習院卒。昭和12年、25歳で当時としては珍しい大恋愛の末、旧相馬中村藩主第32代相馬憲胤(やすたね)氏と結婚。憲胤氏の応召で中国の瀟州へ。4人の子どもさんをかかえ苦難の引き揚げ。◆やがて、インドシナ難民を救おうと1979年に「難民を助ける会」を設立。世界50カ国以上で、災害や紛争時の緊急支援、子どもや障害者への自立支援、対人地雷の廃絶のための活動を行う。表彰・顕彰なども数知れません。



夫の相馬憲胤氏(旧相馬中村藩第32代藩主)と雪香さん
<※33代和胤氏・34代行胤氏>



○雪香さんが嫁いだ相馬家は東京の目白にあり、東大の赤門より立派だったという<左写真>のような門をもち、「建坪が八百坪もの広大なお屋敷で、嫁いだ頃には女中が十人ほどいて、上の女中の洗濯を下の女中が行うことにも驚きましたし、御膳所(ごせしょ・台所)に入ることも、表に出ることもできず、華族の若奥様で大変窮屈な暮らしでした」と、その自叙伝『心に懸ける橋』世論時報社で述べています。

◆元来、父尾崎行雄の民主主義や人類愛の精神を受け継いでいたが、1977(昭和52)年、カナダの知人からの手紙が届く。「世界で最も恥ずべき国は日本です。世界中の目がインドシナ難民にむけられているのに、あなたの国は2人しか受け入れていません」と。手紙を手に協力要請で訪れた外務省では「とやかく言われる筋合いはありません」と一蹴された。この時、父行雄の「官に頼るのではなく、民がしっかりしなければ」という言葉を思い出し、「難民を助ける会」を誕生させた。◆また、10年前にはICBL(対人地雷禁止国際キャンペーン)とともに「世界64カ国の1億1千万個の地雷をなくそう」と呼びかけ、橋本首相を動かして超党派の議員連盟も発足させ、人道的見地から対人地雷撤去キャンペーンを展開。絵本「地雷ではなく花をください」(英訳相馬雪香・自由国民社・¥1,600)を販売し、カンボジアなどの地雷撤去活動に奔走尽力されます。●この絵本「地雷ではなく花をください」1冊の収益で、10m²の地雷原がきれいになりました▲



雪香さんの父・尾崎行雄氏と「ポトマック河畔の桜並木」と「ハナミズキ」



「憲政の神様」尾崎行雄と花水木(ハナミズキ)

○尾崎行雄(1858~1954)<左写真>は新聞記者から政治家になり東京市長をつとめ、さらに明治23年から昭和28年まで63年間国会議員をつとめ「憲政の神様」といわれ、常にファシズムや軍部や官僚政治を攻撃、戦後も平和憲法成立を喜び平和運動に尽力し世界連邦の設立を訴えた。それらの功績で、国会議事堂脇に尾崎・憲政記念館が設立されています。○東京市長を務めていた1912(明治45)年、尾崎は日米友好のためソメイヨシノの苗木数千本を2回贈り、それが今ではワシントン市ポトマック河畔の見事な桜並木になります。そして桜のお返しにいただいたのが「花水木」(花言葉は「返礼」)です。相馬地方の街路樹に「花水木」が多いのは、こんな関わりがあるからです。○新しく南相馬市の「市の花木」を選定するとき、由緒ある「花水木」も話題になったかどうか。○雪香さんやその活動について、もっともっと知られてもいいお話だと思います。雪香さんが亡くなくても、その遺志を継いで「平和を創るために」活動する方もきっと多いことでしょう。

相馬雪香さんのことば

- 「民主主義で大切なのは、一人ひとりが判断力を持つことです」
- 「すぐ隣の国の人々について何も知らずとしない。ヨーロッパやアメリカにはわかり目が向いていいわけがない」
- 「平和を唱えるより、平和を創る人になりたい」
- 「他人を指させば、残る三本の指は自分に向かっている。だから、自分を見つめ直さなければならぬ」(『徹子の部屋』より)



「里の秋」は復員兵の父を待つ歌

里の秋
齋藤信夫 作詞
海沼実 作曲

一 静かな 静かな 里の秋
お背戸に 木の実の 落ちる 夜は
ああ 母さんと ただ一人
栗の実 煮てます 囲炉裏端

二 明るい 明るい 星の空
鳴き鳴き 夜鳴の 渡る 夜は
ああ 父さんの ああ 笑顔
栗の実 食べては 思い出す

三 さよなら さよなら 椰子の島
お舟に ゆられて 帰られる
ああ 父さんよ 御無事でと
今夜も 母さんと 祈ります

○童謡「里の秋」は、太平洋戦争が終わり、海外から日本に帰ってくる復員兵を迎える歌です。戦時中に作詞され「星月夜」という歌でしたが、メロディーも美しく、詞も山里や季節を織り込んでいます。

○終戦直後の昭和20年12月24日、NHKラジオの「外地引揚者同胞激励の午後」という番組で、音羽ゆりかご会の童謡歌手川田正子<写真>がこの歌が流れると、NHKに問い合わせや、「いい曲だ」「もう一度」というリクエストの電話が殺到し、番組中にもう一度「里の秋」を歌ったというエピソードもあります。

○作詞者齋藤信夫は、千葉県成東町出身の元小学校教師。戦争を賛美する教員だった自分自身の、強く静かな反省を含め、「戦争はいけない」という詞を作りました。



「核兵器廃絶平和宣言都市」について12月市議会で質問

【九条はらまち】76号で取り上げましたが、南相馬市役所前には「核兵器廃絶平和宣言都市」の看板が掲げられているだけで、「日本非核宣言自治体協議会」には登録をしていません。以前にも議会で審議されましたが、再び12月南相馬市議会で小川尚一議員が一般質問をします。市長には「旧原町市・小高町・鹿島町でも宣言しているがどうなのか」、また教育長に「平和教育について」答弁を求めるということです。12月10日(水)おおよそ午後1時か2時頃の予定、市議会を傍聴してみましょう。(渡辺市長のタイ帰国足止め変更も?)



○フジテレビ(FTV)木曜夜10:00~のドラマ「園のガーデン」は、大変好評です。北海道の富良野の大自然を背景に、『北の国から』の倉本聰の脚本で、末期ガンの主人公の医師、その父の役が緒形拳で遺作に。親子の葛藤、温かい人間関係、生と死など。平原綾香の主題曲『ノクターン』も聴かせます。ご承知のように『プロフェッショナル 片岡千恵蔵』が伊豆区出身の若松英樹さんで、05年の同局のドラマ『優しい時間』も担当されました。

◇11月24日、本会事務局では参加しませんが、「九条の会」全国交流集会在東京で開催。田母神俊雄発言に関して作家の澤地久枝さんは「なぜ総理は田母神氏を懲戒免職にしなかったのか。自衛隊は内部で非常にゆがんだ教育がなされ、集団的自衛権の名の下に戦争のできる集団になろうとしている」と批判した。(11月25日付『朝日新聞』より)

事務局より

「はらまち九条の会」も12月7日で設立から満3年、会員も増えています

◇次の「総会」は温かい3・4月頃に多くの方が参加できるためには?

●2005(平成17)年12月7日、旧原町市福祉会館で本会が設立されましたが、あれから間もなく満3年。はじめは60名の会員でしたが、現在は約370名の会員となりました●3年間の活動については、逐一毎月のニュース『九条はらまち』で報告のとおりです●次の総会は温かくなる3・4月頃に開催しようか、魅力があって出席したくなる総会のためにはどんな催しがいいの、と事務局内で話し合っていますが、アイデアや企画を事務局までお寄せ下さい●また会則第8条で、私たち事務局員など「会の役員・監査」も任期2年で「改選」となります。



◇納入ありがとうございました。会費2008年分(1,000円)未納の方は、12月末日までよろしくお願ひいたします。年会費は①直接、事務局員に手渡し、または②郵便為替で納入ください。領収書を発行しています。皆様からの会費は勿論、節約や工夫をしながら大切に遣わせていただき、総会で会計報告を行います。

◇九条はらまちに原稿をお寄せください! 黙ってはおれないご時世です。「憲法」や「戦争と平和」、「日本や世界」についてなど、ご意見を。また連載中の「私の戦争体験」の原稿もお寄せください。

◇福島県九条の会から「田母神事務局長の暴言を糾弾する文書」が事務局に届きました。急遽コピーして全会員に同封いたします。次の「九条はらまち」12月号で特集を予定していますが、「田母神発言」についての会員の皆様のご意見をお寄せください。事務局山崎宛て、ハガキやお手紙、電話で。匿名でもけっこうです。

事務局員連絡先 (市外局番は TEL0244)

- ・平田慶業会長 TEL24-1211
- ・山崎健一事務局長 TEL22-8631
- ・井上由美(会計) TEL22-7511 FAX26-0892
- ・石田賢二 TEL22-4037
- ・早坂吉彦 TEL22-0326
- ・香場恵子 TEL22-0715
- ・岡田光生 TEL23-1921
- ・事務局住所 (〒975-0014 福島県南相馬市原町区西町3-53-2 山崎健一)

